



ゆのはな

すべての人が地域であわせに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

第16号
2020年10月
BRCだより

回復期リハ病棟20年目を迎えて 回復期リハビリテーション部 次長 吉村 憲人



2000年(平成12年)に本邦において回復期リハビリテーション病棟が誕生したことをきっかけに、当法人でも回復期リハビリテーション病棟を開設、ちょうど20年目の節目を迎えました。

当法人は、JA共済の全面的支援のもと「医療と福祉が一体となったリハビリテーション施設」として、1972年(昭和47年)に法人設立認可を受け、センターを開所したのが始まりです。開設当初から、障がいのある方の社会復帰を支援し、特に就労支援や社会生活に必要な自動車運転支援などに力を入れてまいりました。

社会情勢の変化に応じ施設の変革はありましたが、現在でもその思いは変わらず利用者、そのご家族と共に、「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を人生の最後まで続けることができるよう支援しております。

「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現するにあたって、地域医療の視点で言えば、地域の方々には様々な医療機関、施設を利用し、様々な医療・福祉・介護サービスを受け生活することになります。

リハビリテーション分野においては急性期・回復期・維持期・生活期・終末期と時期に応じたステージがあり、それぞれの役目を持っています。それぞれのステージでの役割を果たすことはもちろんですが、それぞれのステージ間の連携はとても重要なものになります。

医療におけるリハビリテーションがスムーズにおこなえるよう、また、

退院された方が在宅へ、そして社会へとシームレスに復帰できるように、地域医療機関や福祉介護事業者の皆さんとの連携を今後とも深めてまいりたいと考えております。

皆様のご期待にお応えできるよう、日々、リハビリテーション専門技術の向上と環境整備に努めるとともに、今後ともリハビリテーションを通して、地域医療の一翼を担ってまいりたいと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。



歩行リハビリ支援ロボット
「ウェルウォーク」



ドライビングシミュレーション



自動車運転コース



リハビリテーション訓練室

祭 回復期リハ病棟 夏祭り 祭

A棟

魚釣り・輪投げ・射的を行い密にならないよう距離を保って楽しんで頂きました。輪投げでは豪華な景品を狙って一生懸命に投げる様子が見られました。魚釣りや射的では普段表情が硬い方も笑顔で楽しまれていました。食堂の中央には大きな太鼓を設置し、患者様にも体験して頂きました。「いい企画だった。全て楽しかった。」との声を頂きました。



B棟

職員が作った神輿を担いで回り祭りが始まりました。食堂では、魚釣り・輪投げを行いました。プールの中に入っている魚を一生懸命に釣り、自分が欲しい景品を狙って輪投げをする姿が見られました。食堂まで移動が困難な患者様にも、夏祭りにぜひ参加してもらおうと、移動式のパットゴルフを行いました。男性も女性もホールインワンを狙いパターを懸命に振る様子が見られました。祭りを盛り上げるために、職員が作った法被も患者様から好評でした。

回復期リハビリテーション病棟2019年度実績



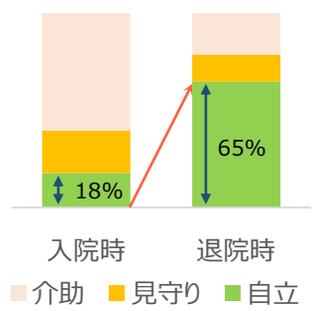
退院先割合



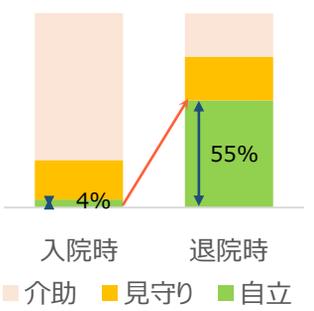
疾患別割合



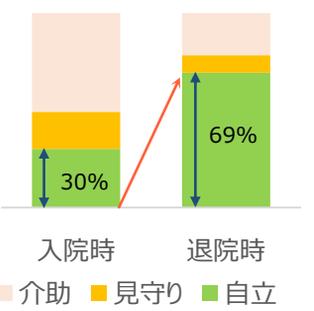
脳血管歩行改善



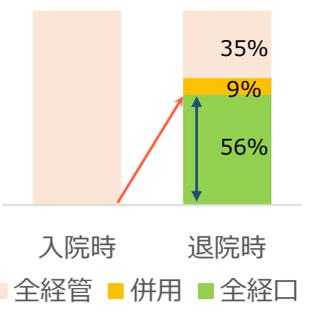
大腿骨頸部骨折歩行改善



脳血管トイレ動作



経管栄養改善



退院後ご自宅に戻られた方が全体の73%と、昨年よりも2%増加しました。入院時と退院時の歩行改善度は、脳血管障害の方は65%、大腿骨頸部骨折の方は55%の方が、単独での歩行が可能となりました。トイレ動作について

では脳血管障害の方は69%の方が単独で可能となりました。また入院時に3食とも経管栄養(チューブ経由の摂取)であった中で、退院時には56%の方が3食ともお口から食べることができるようになりました。

Let't try 腰痛防止にセルフ筋膜リリース!!

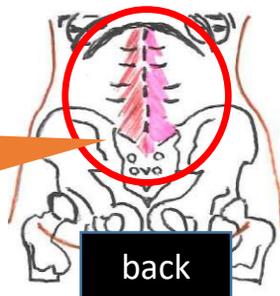


靴下を履く、頭や顔を洗うといった腰をかがめた姿勢になると腰が痛む場合は、多裂筋(腰椎4・5番)を中心に、筋膜をリリースしてみましょう。今回は、テニスボールを使用した方法をお伝えします。 理学療法士 小田原 幸治

1 腰と壁の間にボールを差し込みます。
ウエストラインの高さで、背骨の左のへりにテニスボールを差し込みます。ボールの位置がずれないように体重をかけて腰をボールに押しつけ、腰の筋膜を、じんわりとリリースします。

多裂筋の働き

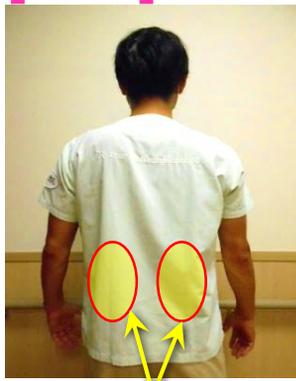
上体が前に倒れないように
背部で支える筋肉



テニスボール



pick up!



ウエストラインの背骨
の両脇に当てましょう

2

膝の屈伸でボールが当たる位置を上下させ、それぞれ10秒間リリースします。



10秒
Stretch
+
PRESS

3

反対側も同様に行いましょう。
1箇所、10秒程度、×2セットを目標に、無理をせずに、ゆっくりとやってみましょう!



「高次脳機能障害支援パンフレット」を製作しました



回復期リハビリ病棟の医療サービス向上委員会では、患者さんとご家族への退院支援として「高次脳機能障害支援パンフレット」を作成しました。手に取って読んでいただけるように、病棟や訓練室に設置しています。ご自由にお持ち帰りください。

「个人防护具装着手順」の職員教育用ビデオを製作しました

回復期リハビリ病棟の院内感染対策部会では、新型コロナウイルス感染症などの感染対策として、職員教育用のビデオを製作しました。動画は電子カルテ端末や、職員用ホームページで、いつでも閲覧できるようになっています。





管理栄養士おすすめレシピ♪



根菜を入れて食物繊維アップ!

根菜と豚肉の混ぜご飯



★★★★ ワンポイント ★★★★★

生のれんこんを使う場合、皮を剥いていちょう切りにした後で、酢水や水につけて、アクを抜いてください。

| | | |
|------|---------|-------|
| 調理時間 | エネルギー | 食塩相当量 |
| 20分 | 415Kcal | 0.7g |

※ エネルギー・塩分は一人分です

材料 (2人分)

| | | | | |
|-------------|------|--------------|---------|-----|
| れんこん(水煮)…… | 100g | 砂糖 | 小さじ1 | } A |
| 人参 | 40g | 濃口しょうゆ | 小さじ1.5 | |
| ごぼう(ささがき)…… | 40g | みりん | 小さじ1 | |
| 豚バラ肉 | 60g | ご飯 | 2人分240g | |
| ごま油 | 小さじ1 | みつ葉(1cm切り)…… | 1本 | |
| | | 白ごま | 適量 | |

作り方

- ① れんこんの水煮は、袋を開け数回水洗いし、ザルを使って水気をきる。薄めのいちょう切りにする。
- ② 人参は皮をむき、薄めのいちょう切りにする。
- ③ ごぼうのささがきはザルで水気をきる。
- ④ 調味料Aを計り、混ぜておく。
- ⑤ フライパンを熱し、ごま油をひいて、豚バラ肉を炒める。
- ⑥ 豚バラ肉の色が変わったら、れんこん、人参、ごぼうを入れて火が通るまで炒める。
- ⑦ 火が通ったら、調味料Aを入れて軽く炒め火を止める。
- ⑧ ボウルにご飯と⑥を入れてしゃもじで混ぜる。
- ⑨ 器に盛り、みつ葉と白ごまをかけて盛り付ける。

根菜と豚肉の炊き込みご飯



★★★★ ワンポイント ★★★★★

筑前煮の素を使わない場合、れんこん1/3本、人参1/2本、ごぼう1/3本、こんにゃく30g位の量を参考にして下さい。

| | | |
|------|---------|-------|
| 調理時間 | エネルギー | 食塩相当量 |
| 50分 | 385Kcal | 1.0g |

※ エネルギー・塩分は一人分です

材料 (4~5人分)

| | | | | |
|------------------|------|---------|----------|-----|
| 筑前煮の具(水煮)…… | 320g | 濃口しょうゆ | 大さじ1 | } B |
| (野菜220g、つけ汁100g) | | みりん | 大さじ2 | |
| 豚バラ肉 | 150g | 酒 | 大さじ1 | |
| みつ葉(1cm切り)…… | 2本分 | 水 | 適量 | |
| 白ごま | 適量 | 米 | 2合 | |
| | | 昆布(好みで) | 3cm×10cm | |

作り方

- ① 筑前煮の素(水煮)の袋を開け、つけ汁と野菜に分ける。(※つけ汁は後で使うので捨てない)
- ② ①の野菜を食べやすい大きさに切る(1cm幅くらい)。
- ③ 豚バラ肉を大きめの一口大に切る。
- ④ 米を洗い、炊飯器の内釜に入れる。①のつけ汁を入れた後に2合の目盛りまで水を入れる。
- ⑤ ④に昆布、切った野菜(みつ葉以外)、豚バラ肉、調味料Bを入れて、炊飯器にセットし、炊飯する。
- ⑥ 炊きあがったら、昆布を取り出し、具とご飯をよく混ぜる。
- ⑦ 器に盛り、みつ葉と白ごまをかけて盛り付ける。

社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 / 日本脳卒中学会認定研修教育病院

製作:回復期リハビリテーション部
医療サービス向上委員会

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10
TEL: 0977-67-1711 FAX: 0977-67-1712
URL: <https://brc.or.jp>

